

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年6月1日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) No.17

社宅でも殺人被害！ JR総連は真相を説明せよ！

日本の労働組合で唯一、7名もの死者を出した内ゲバで血塗られた歴史を持つJR総連。被害者にはお気の毒だが、しかし、一般の組合員まで巻き添えにされてはならない。

実際、前号の表のうち、1986年9月に発生した中核派による同時内ゲバ(1名死亡、8名重軽傷)は、大阪府(吹田市、高槻市)、兵庫県(西宮市、伊丹市)の社宅で事件が起きたのである。戦慄の事件を伝える当時の新聞記事の一部を紹介したい。

【朝日新聞 1986年9月1日夕刊】

真国労幹部を同時襲撃 自宅で9人死傷 動労幹部も 改革路線を妨害？ 中核派の犯行か

1日未明から朝方にかけて、埼玉、大阪、兵庫の3府県で、真国鉄労組や国鉄動力車労組の幹部が住む国鉄宿舍など計6カ所が、鉄パイプを持ったグループに襲撃され、真国労大阪地本の前田正明書記長(37)が死亡したほか、同地本の岡野恒雄委員長(44)、真国労東京地本の佐藤司委員長(48)ら組合幹部とその家族ら8人が重軽傷を負った。(中略)警察庁は、国鉄の分割・民営化路線に反発する中核派の犯行ではないかとみている。

(前略) 同日午前4時前、兵庫県伊丹市緑ヶ丘、国鉄アパートの国鉄大阪保線区員で真国労大阪地本書記長前田正明さん方に、ヘルメット、ガスマスク姿の4~5人の男が外からアルミ製ハシゴをかけて台所の窓ガラスを破って侵入。寝ていた前田さんの妻のAさんに手錠をしたうえ、二人に鉄パイプのようなもので襲いかかった。前田さん夫妻は市立伊丹病院に運ばれたが、前田さんは頭を強く殴られ、脳挫創で約2時間後に死亡、Aさんも全身打撲で重体。襲撃した男たちは止めていた白っぽい乗用車で南へ逃走した。周囲の電話線は切断されていた。また、同じころ、大阪府高槻市、国鉄宿舍、大阪車掌区員で真国労大阪地本執行委員の仲千祐男さん(40)方が鉄パイプを持った若い男二人に襲われ、仲さんは頭部に重傷、妻Bさんも頭に軽いけが。午前4時ごろ、大阪府吹田市片山町、国鉄宿舍、新幹線総局大阪第一運転所職員で動労組合員の京力正明さん(35)方が鉄パイプらしいものを持った4、5人の男に襲われ、一人で寝ていた妻のCさんが手足に重傷。約100メートル離れた同宿舍、国鉄宮原機関区勤務で動労大阪地本執行委員の文中恵さん(39)方も別の5人組の男に襲われ、一人で寝ていた妻のDさんが足の骨折で1ヶ月のけが。同時刻ごろ、兵庫県西宮市松山町、国鉄アパート、神戸保線区員で真国労大阪地本委員長岡野恒雄さん方が4人組の男に襲われ、岡野さんと妻のEさんが全身打撲で重傷を負った。埼玉県では1日午前1時半ごろ、大宮市奈良町、真国労東京地本の佐藤司委員長方に、4、5人の男が侵入、寝ていた佐藤さんの頭、両手足などを殴り、書類などの入ったセカンドバッグを奪って逃げた。佐藤さんは両手足の骨折と全身打撲で重体。(後略)

中核派は事件当日に「軍報」なる犯行声明を出し、真国労や動労の役員と妻を「カクマル分子」と名指しして成果を誇示した。当時、社宅の住人は大パニックに陥ったという。

一般組合員の恐怖は募る！ だからJRからの革マル追放が必要なのだ！

1995年11月以降、JR関係の内ゲバは発生していないが、過激派間の抗争など予測の仕様もない。JR総連関係者が多数襲撃されてきたのは事実。政府がJR総連・東労組への革マル派の浸透を明言する中、JR社員が不安や恐怖を感じないわけにはいかない！

検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！ JR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>